

□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

[注目スケジュール]

- 11/17 2008年第3四半期のGDP1次速報 (日本)
米鉱工業生産指数、NY連銀製造業景況指数
- 18 米大規模小売店売上高
- 19 米住宅着工件数、米消費者物価指数
- 20 日銀金融政策決定会合 (21日まで)
米新規失業保険申請件数、米景気先行指数
米フィラデルフィア連銀景況感指数
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京金・白金共に日足チャートはボリンジャーバンドは -2σ が横這いから上昇、 $+2\sigma$ が下降を示しており収束傾向がはっきりしている。日柄的にもう少し日足が横這いしてははっきりとボリンジャーバンドが収束しきってしまえば新たな展開も見てくようが後一週間程度はこのままレンジで推移すると予測すべきであろう。具体的なレンジを銘柄別に示すと金は2176円(11/13安値)~2399円(11/10高値)の幅、白金は2397円(11/13安値)~2787円(11/10高値)とそれぞれなる。ボリンジャーの収束の仕方から見て再びバンドが広がらないかぎりはこのレンジを往來する展開となり易いだろう。そして白金だが、やはりファンドの大量手口に国内大手商社と外銀が向う展開。彼らの東京市場でのポジションはロングなので、手のあってない(上手くない)ファンドの手口に向いながら上手く泳いでいる買い方について買い中心の逆バリがよいと感じる。(11/14 14:25現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

今週の注目は白金相場となりそうだ。いよいよ18日にロンドンでジョンソン・マッセイ(JM)社による需給報告が行われる。これは5月と11月に毎年行われているもので、実需筋として名高い同社の需給分析が市場に与える影響は大きい。半年前とは需給状況が全く異なっているために、どのような内容となるのか市場関係者の注目もいつになく高いものと考えられる。白金価格と金価格が同値になろうかという水準まで調整が進んだことで、きっかけ一つで白金相場が盛り返す可能性を秘めている。同社の提示する予想レンジに関しては、今回は大きく下にブレイクしてしまっているだけに、今後半年間の見通しをどのように出してくるかも興味深い。

加えて、米国では自動車業界に対する支援策をどうすべきか公聴会が開催される。既に250億ドル規模の追加支援が有望とされているが、業界と議会、政府が折り合いを早期につけることができるかどうか、これもまた重要なポイントとなつてくよう。肩透かしにあえばダメージは大きいものの、市場では期待を先取りした買いが散見される。

また、金相場に関しては、原油価格と株価、為替が引き続き手掛かりとなりそうだ。このところ、いずれもが同方向を向いているため、金融サミットが市場に好感されるかどうかが鍵だ。株価が安定すれば、それが原油価格に上向き圧力となり、同時に為替市場では円安の流れを呼び込みやすい。そうして金相場にも上昇期待が出てくることになる。現状では明確なトレンドは出ていないため、イベントリスクを取るのであれば、白金買い・金売りヘッジが戦略として浮かび上がる。ミニ取引が始まったこともあり、バランス調整を交えて攻めて見たいところだ。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0079 (許可取得日08/11/14)